

総合地球環境学研究所 2025 年度開始分
実践プロジェクト 予備研究 (FS) 質疑応答集

Q1 現在、進行中の実践プロジェクトの共同研究員となっていますが、応募することはできますか。

A1 ご応募いただくことは問題ありません。ただし、FS として採択された後は、共同研究員から外れることを検討していただく必要があります。

Q2 研究を進める中で研究内容が変わっていくことも想定される。申請時には研究内容をどの程度まで確定する必要がありますか。

A2 FS から FR までに研究内容が変わることは想定されるため、FS 申請時では完成した内容でなくても問題はありません。ただし、本公募が IS の次段階である FS から開始するものであるため、主要な研究内容についてはある程度の枠組みの設定は必要となります。

Q3 申請の時点で研究参画者も文理融合を想定して FS 計画書を作成する必要がありますか。

A3 地球研は設立当初から一つの研究分野では解決困難な環境問題の解決への貢献を目指し、学際研究や超学際研究を推進してきました。そのため、研究計画を達成するために必要な分野の共同研究者の参画を求めており、その点を考慮に入れ FS 計画書を作成ください。

Q4 FS 計画書は日英併記で作成することは可能ですか。

A4 日本語様式・英語様式それぞれに文字数の指定があり、公平性の観点から日本語・英語どちらかの言語で作成いただくようお願いいたします。

Q5 クロアポの機関間での調整が不調となった場合など、研究代表者の着任が難しい場合に研究代表者の変更は可能ですか。

A5 地球研では最初の提案からプロジェクトの終わりまでを段階的に形成していくことと

しており、研究代表者の交代は原則的に認めておりません

Q6 FRに採択されてから、どの程度の頻度で進捗報告の機会がありますか。

A6 FRに採択されてからも毎年11月の研究審査・報告会や2月の外部評価において報告の場を設けております。特に外部評価では2年目、4年目に中間評価を行いプロジェクトの進捗状況の評価を行っています。

Q7 研究を進めるなかで産学連携などによって民間企業などの別の資金と組み合わせて研究を行うことは可能ですか。

A7 可能です。科研費や民間企業からの外部資金による研究と地球研の研究を組み合わせ、シナジー効果が生まれることも期待しています。

Q8 ISについて、これまでどのような提案があり、どのように実施されているのでしょうか。

A8 これまで幅広いテーマの提案がありました。また、ISでは研究を進めていく中で研究体制などの相談があれば、補完すべき分野の共同研究員を提案するといったかたちで助言を行っています。今回の公募はFSの段階からでありフルリサーチまでの時間が限られているため、申請いただく時点でどのような分野の人に参画してもらうかなど具体的な提案書を作成していただく必要があります。地球研の公募では申請前のプログラムディレクターとのコンタクトを禁止していないため、気になる点があれば遠慮なく相談してもらって構いません。

Q9 民間企業に在籍する社会人が研究提案することや研究への参画することは可能ですか。

A9 地球研のプロジェクトリーダーは教授・准教授相当を想定しておりますが、学術コミュニティ以外からプロジェクトリーダーになっていただくことは可能です。プロジェクトリーダーとなっただけの資質判断は所長や人事委員会で行います。

また、学術コミュニティ以外の方でも、プログラムディレクターがそれぞれの研究に必要な人員であると認めた場合、共同研究員として研究に参画することが可能です。

Q10 プログラムのミッションステートメントで「地球人間システムに存在する様々な価値と連環を明らかにする」、「人と自然の関係性の変容を目指す」とあるが、「明らかにする」と「変容を目指す」のどちらを目標にした研究提案を求めていますか。

A10 ミッションステートメントはプログラム全体の研究目標であり、プログラムを構成する各プロジェクトはすべてを網羅する必要はなく、いずれかの目標に重心を置いていれば結構です。ただし、研究提案は「地球人間システム」として自然・社会・人を繋げていることを求めています。

Q11 プロジェクトの成果としてはどのような研究所への貢献が求められますか。

A11 個々の分野での成果に加えて、総合的な研究成果として、論文や書籍を執筆していただくことを求めています。その他にも論文や書籍以外の様々なアウトプットによって、企業や行政、市民への社会的なインパクトとなる成果が出されることも期待しています。

以上